

気仙沼市震災遺構（旧気仙沼向洋高校）保存整備に係る調査

## 参考資料

- 気仙沼市東日本大震災伝承検討会議報告書まとめ
- 国内外の他市被災建物・形跡の保存・公開事例

平成 26 年 11 月 19 日

株式会社 丹青社

【参考資料】気仙沼市東日本大震災伝承検討会議報告書まとめ

# 気仙沼市東日本大震災伝承検討会議報告書について

気仙沼市東日本大震災遺構検討会議を進めるにあたり、震災伝承のあり方に関して平成26年5月にまとめられた「気仙沼市東日本大震災伝承検討会議報告書」は、検討の前提となる。今後の検討に影響する内容を中心に、報告書の内容を整理する。

### <気仙沼市震災復興の基本理念>

- 史上最大の犠牲者…「二度と繰り返さないこの悲劇」
- 自然に対する畏怖、畏敬の念…「自然と調和する都市構造と市民生活」
- 人々の経済的困窮…「市民の経済的安定と産業の再生」
- 産業基盤の壊滅的打撃…「生産性向上、構造改革の契機」
- 人々の優しさ、頑張り…「家族愛、他者への愛、郷土愛、愛の溢れるまちづくり」

### <気仙沼市震災復興の目標>

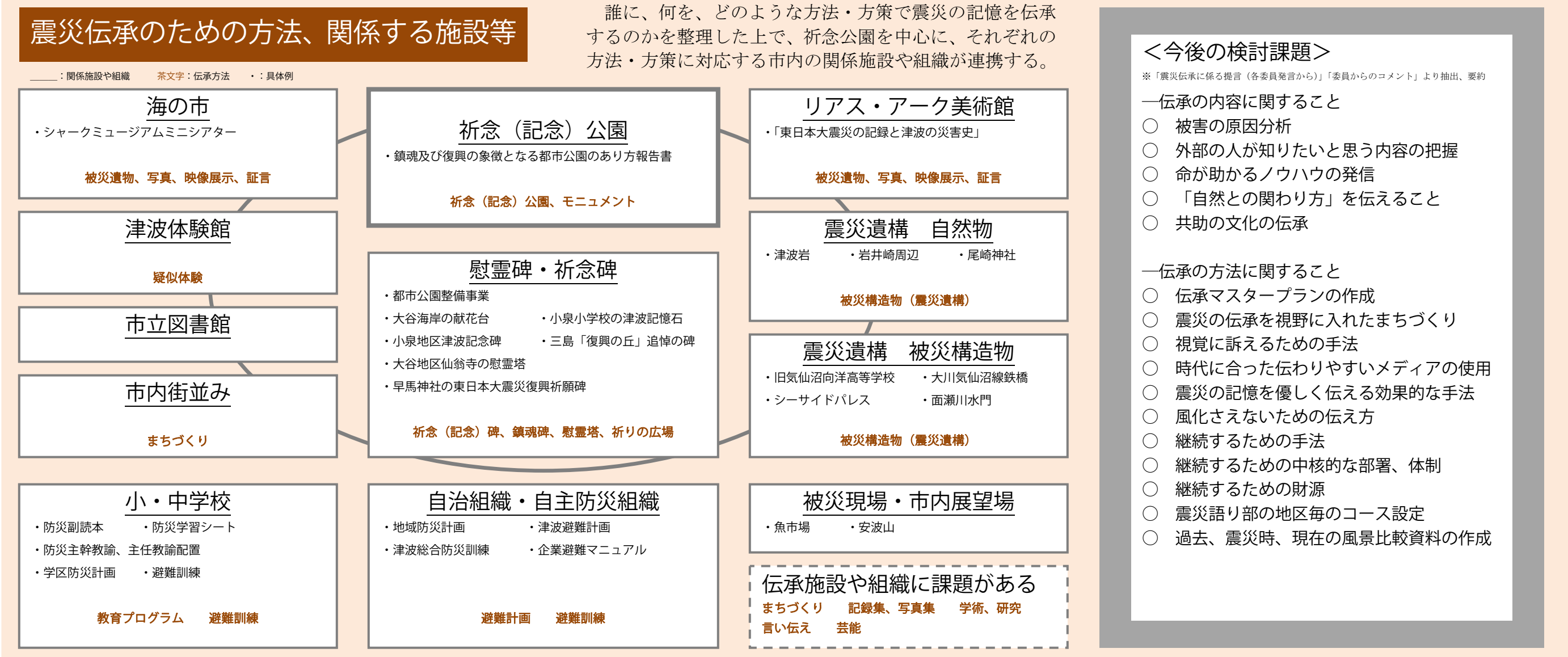
- 津波死ゼロのまちづくり
- 職住復活と生活復興
- スローでスマートなまちとくらし
- 早期の産業復活と雇用の確保
- 持続発展可能な産業の再構築
- 地域に笑顔溢れるまちづくり

### <復興計画>

- 市土基盤の整備
- 防災体制の整備
- 産業再生と雇用創出
- 自然環境の復元・保全と環境未来都市（スマートシティ）の実現
- 保健・医療・福祉・介護の充実
- 学びと子どもを育む環境の整備
- 地域コミュニティの充実と市民等との協働の推進

### <震災伝承>

- 追悼と鎮魂・犠牲を繰り返さない誓い
- 災害に強いまちづくり・将来世代への伝承
- 沿岸部に暮らす全国・全世界の人々への伝え



## 震災伝承における震災遺構の効果

### ＜震災遺構候補の保存に向けた対応＞

- 目的の明確化
- 気仙沼の被災の特徴を表現できるものを保存する
  - －気仙沼には市街地の近くに高台があり、そこにいち早く避難することの重要性
  - －大津波によって地域の基幹産業（水産加工業）が被災したときの深刻さ
- 震災前の人々の生活痕、歴史、生活空間まで遺せるよう工夫が必要

#### 震災遺構 被災構造物



#### 参考：震災遺構 自然物



震災の記憶や教訓を伝承するうえで、視覚に直接訴える手法の効果は大きい。被災した場所に被災構造物等が存在すること、海との地理的な位置関係がわかること、生活痕が見えることに繋がる震災遺構は視覚に訴える力をもつ。

- 今後の復旧復興工事との兼ね合い
- 地域の歴史や生活との関係
  - ・江戸時代の伊達藩の御塩場の跡地に建設された歴史
  - ・折りの場との関係（地福寺、琴平神社）
  - ・観光地との関係（岩井崎）
    - －化石群、龍の松、松林、秀ノ山像 など

旧気仙沼向洋高校

### ＜今後の検討課題＞

※「震災伝承に係る提言（各委員発言から）」「委員からのコメント」より抽出、要約

- 目的・意義の整理
- 経費のかからない工夫（初期費用、運営費用）
- 気仙沼の津波災害史のシンボルとして広い捉え方での位置付け
- 周辺の公園化
- 周辺の土地利用との整合性
- 空間的、時間的な広がりも含めた保存
- 多くの市内外の方々に見ていただくための方策、仕掛けづくり

－旧気仙沼向洋高校に関すること

- 校舎一つを遺して遺構とするのではなく、被災した地域の歴史や生活を踏まえ位置づけを明確化すること
- 保存・維持費用確保策の検討及び市全体としての震災伝承につなぐ工夫

## 震災伝承における教育の重要性

震災の記憶や教訓を伝承するうえで、継続的、体系的に次代に引き継ぐにあたり、「教育」が重要な役割を果たす。適正な手順で学ぶことにより、防災や地域との支え合いへの意識が向上するとともに、主体的な判断力と行動力が身につく。

### 事実を記憶にとどめる

- ・被害の状況 など
- ・復興の状況 など

### 正しい知識を学ぶ

- ・自然災害のメカニズム など

### 被害をもたらした原因を探る

- ・過去の被災とその後のまちづくり
- ・地域の支え合いの希薄化 など

### 防災・減災のための方法を考える

- ・自助、共助、公助、N助
- ・判断力、行動力の習得
- ・まちづくり
- ・知恵 など

### ＜今後の検討課題＞

※「震災伝承に係る提言（各委員発言から）」「委員からのコメント」より抽出、要約

- 地域の魅力を伝えること
- 学校と地域が連携した防災教育
- 防災副読本の作成
- 繰り返しの体験
- 教育効果を生む仕掛け
- 津波の文化史学習
- 「津波と共生する方法」を学ぶ仕組み

被災建物・形跡の保存・公開事例 <国内編>

エリア名		中越メモリアル回廊			
施設名		妙見メモリアルパーク	震央メモリアルパーク	木籠メモリアルパーク 郷見庵	おぢや震災ミュージアム (そなえ館)
所在地		新潟県小千谷市	新潟県長岡市	新潟県長岡市	新潟県小千谷市
事業主体		中越メモリアル回廊推進協議会	中越メモリアル回廊推進協議会	中越メモリアル回廊推進協議会	中越メモリアル回廊推進協議会
管理・運営		中越メモリアル管理協議会	(社) 中越防災安全推進機構+地元NPO	(社) 中越防災安全推進機構+地元集落	(社) 中越防災安全推進機構
概要		地震発生から92時間後に2歳児が救出された現場の隣接地に、追悼の祈りを捧げるための場所として祈念公園が設けられている。崩落した土砂の一部を残したまま、道路部分については土砂を取り除いて法面を補強する等の再整備を行っている。	震源地である震央（棚田）を保存し、支えてくれた人々への感謝の気持ちを発信している。高台から震央を見通す形で見晴らし台が設けられている。	地震による大規模な地滑りの発生で集落の半分にあたる14戸が水没する被害を受けた場所について、住宅等を被災した状況のまま保存している。	震災直後の様子や避難生活、仮設住宅内の様子の再現展示を行うとともに、地震動シミュレーター等を配した防災教育施設となっている。
災害の種類	地震	○	○	○	○
	津波				
	その他				
被災建物				○ 住宅	
被災地盤等		○ 崩落土砂	○ 震源地	○ 水没集落	
新施設（展示等）				○ 郷見庵2階（資料館）	○
公園		○	○	○	
メモリアル		○ 献花台	○	○	
観光対応				○ 郷見庵1階（案内、地元品の直売所）	
備考			私有地	移住した住宅地は元の集落を望む位置にある。	

※参考：国土交通省都市局「東日本大震災に係る鎮魂及び復興の象徴となる都市公園のあり方報告書」(平成24年3月)および各施設のホームページ等

被災建物・形跡の保存・公開事例 <国内編>

エリア名		中越メモリアル回廊			北淡震災記念公園
施設名		長岡震災アーカイブセンター (きおくみらい)	やまこし交流復興館 (おらたる)	川口きずな館	北淡震災記念公園 野島断層保存館
所在地		新潟県長岡市	新潟県長岡市	新潟県長岡市	兵庫県淡路市
事業主体		中越メモリアル回廊推進協議会	中越メモリアル回廊推進協議会	中越メモリアル回廊推進協議会	兵庫県淡路市 (野島断層保存館は兵庫県)
管理・運営		(社) 中越防災安全推進機構	(社) 中越防災安全推進機構	(社) 中越防災安全推進機構	淡路市
概要		写真や書籍、被災者の証言を収集・継承、先進のIT技術を活用しながら発信している。地震発生数日後の航空写真にiPadをかざすと3Dアイコンで被害状況がわかる等、工夫をこらした展示がなされている。	被災状況と復旧・復興への歩みについて、仮設住宅の再現や床面を利用した展示、写真や映像プロジェクションマッピングで紹介している。また、里山の暮らしや文化等、山古志地域の観光案内の機能も持ち合わせている。	新たな交流の未来を開き、豊かな地域づくりを進める拠点となるべく、被災を通して育まれた交流やまちづくりでの経験を紹介している。地域の人々が体験した「絆の物語」を手紙の形で収集、記録、震災後の取組みを壁面に年表形式で伝えている。	野島断層保存館、いこいの広場、セミナーハウス、レストラン・物産館等によって公園が構成されている。野島断層保存館では、地震で出現した断層や活断層の真横にあった住宅、神戸市内から移設してきた防火壁を保存している。起震装置による体験コーナーも備えている。
災害の種類	地震	○	○	○	○
	津波				
	その他				
被災建物			△ (近隣連携)		△ 防火壁等(移築)
被災地盤等			△ (近隣連携)		○ 断層
新施設(展示等)		○	○	○	○
公園					○
メモリアル					○
観光対応			○ 里山紹介		○ レストラン・物産館
備考			木籠メモリアルパークに近い。		

※参考:国土交通省都市局「東日本大震災に係る鎮魂及び復興の象徴となる都市公園のあり方報告書」(平成24年3月)および各施設のホームページ等

被災建物・形跡の保存・公開事例 <国内編>

エリア名		神戸港震災メモリアルパーク	島原半島ジオパーク（大野木場被災遺構）		
施設名		神戸港震災メモリアルパーク	旧大野木場小学校被災校舎	大野木場砂防監視所 （大野木場砂防みらい館）	かどわき歴史災害記念館
所在地		兵庫県神戸市	長崎県南島原市	長崎県南島原市	長崎県南島原市
事業主体		神戸市	南島原市（所有は国交省）	国交省九州地方整備局	南島原市
管理・運営		（社）神戸港振興協会	南島原市	国交省九州地方整備局	NPO法人大野木場教育振興会
概要		被災したメリケンパークの岸壁の幅約15メートル、延長約60メートルを保存し、周囲の回廊から見学できるように整備している。 休憩所を兼ねた屋外展示施設を設け、被災の状況や復旧の過程などを記録した模型や映像、写真パネルなどを展示している。	大火砕流で全焼した日本で唯一の火砕流被災遺構である小学校校舎を保存し、砂防学習拠点の一つとしている。	旧大野木場小学校被災校舎に隣接し、不安定な普賢岳の溶岩ドームの挙動等の監視所や土砂除去の無人化施工機械の操作所が設置されているとともに、砂防工事関係や火山防災関係の資料を展示している。	大火砕流で全焼した旧大野木場小学校の歴史を中心に、災害時の地域の人々の生活の様子や復興の様子を記した写真や書物を展示している。 また、砂防施設について学習できる場となっている。
災害の種類	地震	○			
	津波				
	その他		○	○	○
被災建物			○ 学校	△ （隣接連携）	△ （近隣連携）
被災地盤等		○			
新施設（展示等）		○	△ （隣接連携）	○	○
公園		○			
メモリアル		○ 復興記念モニュメント			
観光対応					
備考		近隣の海洋博物館にも震災展示がある。	旧小学校に隣接して砂防監視所がある。	旧小学校に隣接して砂防監視所がある。	

※参考：国土交通省都市局「東日本大震災に係る鎮魂及び復興の象徴となる都市公園のあり方報告書」（平成24年3月）および各施設のホームページ等

被災建物・形跡の保存・公開事例 <国内編>

エリア名		島原半島ジオパーク（被災家屋保存公園）	三宅島阿古溶岩遊歩道	丹後震災跡地	
施設名		土石流被災家屋保存公園	旧阿古小中学校および周辺民家	郷村断層	丹後震災記念館
所在地		長崎県南島原市	東京都三宅島	京都府京丹後市	京都府京丹後市
事業主体		長崎県			峰山町（現在、京丹後市所有）
管理・運営		南島原市（指定管理者）			財団法人丹後震災記念館 （現在、京丹後市文化財保護課）
概要		雲仙普賢岳噴火の際に発生した土石流により埋没した家屋の一部について、土砂に埋もれた様子を間近に見学できる形で保存・展示している。 大型テント内に3棟、屋外に8棟の計11棟にあり、そのうち1棟は移築されたもの。	埋没した19haに及ぶ溶岩原に遊歩道が設けられ、埋没した小中学校や約400戸の民家を間近に見学できる。	北丹後地震の際に発生した断層で、垂直及び水平のずれが顕著で、花崗岩を切断して岩盤に鏡肌や擦痕をつくっている。 地質学上大変珍しく貴重なものであるとともに、地震の記憶をとどめる記念碑として、当時のまま残されている。	北丹後地震の記憶を後世に伝えるために昭和4年に建設され、震災時の惨状が描かれた油絵等の展示や武道場として使われた。 耐震上の課題があり、現在は閉鎖中。 震災関連資料は、京丹後市峰山図書館に保管されている。
災害の種類	地震			○	○
	津波				
	その他	○	○		
被災建物		○ 住宅	○ 学校、民家		
被災地盤等			○ 溶岩原	○ 断層	
新施設（展示等）		○ 大型テント		○ 覆屋と案内表示	△ 特別な申し入れがあった場合のみ対応
公園					
メモリアル					○ 震災記念碑
観光対応		○ 道の駅（隣接）			
備考		道の駅が隣接し、一体で運営されている。		国の天然記念物に指定されている。	昭和初期の貴重なRC造として、京都府の指定文化財となっている。

※参考：国土交通省都市局「東日本大震災に係る鎮魂及び復興の象徴となる都市公園のあり方報告書」（平成24年3月）および各施設のホームページ等

被災建物・形跡の保存・公開事例 <海外編>

エリア名		バンダ・アチェ市津波遺産			
施設名		アチェ・ツナミ・ミュージアム	発電船とツナミ教育公園	ランプロ村の船	ウレルー集団埋葬地
所在地		インドネシア スマトラ島 アチェ特別州	インドネシア スマトラ島 アチェ特別州	インドネシア スマトラ島 アチェ特別州	インドネシア スマトラ島 アチェ特別州
事業主体		シャクアラ大学	国	アチェ特別州政府	
管理・運営		シャクアラ大学			
概要		被災の状況を伝える展示とともに、各国からの支援への感謝を表した公園や鎮魂の場を備えている。ミュージアムの最上階は避難場所となるように設計されている。また、「被災経験」というキーワードで世界とつながるよう、日本や中国、タイ等との連携を検討している。	離れた港から移設、リノベーションされた発電船の周囲100mを公園としている。船のまわりに見学用のボードウォークが設けられ、見学ルートの途中には壊れた民家等もある。	流されて民家の屋根に留まった状態の船について、特別な保存処理は行わない形で保存している。見学のためのスロープと展望台を設置し、民家の内部にも入ることができる。	津波犠牲者のための集団埋葬地。津波によって破壊された病院の建物が埋葬地に隣接して残っている。
災害の種類	地震	○	○	○	○
	津波	○	○	○	○
	その他				
被災建物			○ 民家	○ 民家	○ 病院
被災物、被災地盤等		○ バイク等	○ 発電船	○ ボート	
新施設（展示等）		○			
公園		○	○		
メモリアル		○ 追悼壁			○ 埋葬地
観光対応		○ 土産取扱	○ 周辺に土産店	○ 土産店	
備考		シャクアラ大学・災害減災研究センターでは、世界の国々との共同研究が進んでいる。	図書資料室を整備中。		身元特定できず、大人か子どもかの別で埋葬場所を分けている。

※参考：国土交通省都市局「東日本大震災に係る鎮魂及び復興の象徴となる都市公園のあり方報告書」（平成24年3月）および各施設のホームページ等



被災建物・形跡の保存・公開事例 <海外編>

エリア名		九二一地震教育園區			東河口地震遺跡記念公園
施設名		九二一地震教育園區	九二一震災記念鉄塔	武昌宮	東河口地震遺跡記念公園
所在地		台湾 台中県	台湾 南投県	台湾 南投県	中国 四川省 広元市
事業主体		国			広元市 青川県
管理・運営		国（国立自然科学博物館）			広元市 青川県
概要		地震で発生した断層により壊れた陸上競技場、被災した教室等を保存している。被災状況や防災教育等の展示とともに防振技術や被災建物の保存技術に関する展示があり、展示内容によって建物を分けている。	地震で傾いた鉄塔のうちの一つを保存している。	1階が押しつぶされ傾くように崩れた建物が残っている。隣接地に新たな建物が完成するまでは仮設建物が設けられており、そこを訪れる参拝者が見学で立ち寄っている。	地震でできた36箇所の堰止湖や地面から出た石を保存し、博物館では震災の状況や復興の現状をテーマとする展示やシアター上映を行っている。犠牲者の名前が刻まれた記念台の前では追悼式典も行われる。
災害の種類	地震	○	○	○	○
	津波				
	その他				
被災建物		○ 教室、回廊	○ 鉄塔	○ 廟	
被災物、被災地盤等		○ 陸上競技場			○ 堰止湖
新施設（展示等）		○			○
公園		○			○
メモリアル		○			○ 記念碑、記念台
観光対応					
備考		断層保存館、地震工程教育館、映像館、復興記念館、防災教育館の各館それぞれで分野ごとに展示。		観光地化されているわけではない。	地震発生から半年後に、四川大地震後のはじめての遺跡公園として開園。

※参考：国土交通省都市局「東日本大震災に係る鎮魂及び復興の象徴となる都市公園のあり方報告書」（平成24年3月）および各施設のホームページ等

被災建物・形跡の保存・公開事例 <海外編>

エリア名		唐山地震遺跡記念公園	北川地震構想		
施設名		唐山地震遺跡記念公園	汶川地震博物館	北川擂鼓鎮レセプションセンター (北川地震跡地保存エリア)	北川地震博物館
所在地		中国 河北省 唐山市	中国 四川省 成都市	中国 四川省 成都市	中国 四川省 成都市
事業主体		唐山市	建設は広東省広州市（対口援助）	国	国
管理・運営		唐山市	民間（政府職員経験者）		
概要		地震で支柱だけになった自動車の鉄鋼プラント工場の遺構を保存し、被災状況の展示や被害者への追悼を行っている。公園内には遺構や博物館のほかに、犠牲者の名前が刻まれたメモリアルウォールや約3万本の記念林の植栽がある。	地震により壊されたままの状態の現場を保存している。博物館内では、被災者の遺物や被災者救済に関する資料や情報の展示している。	街全体が移転した被災エリアについて、土砂災害防止措置や標識等を整備して保存している。見学人数を1日1000人に限定し、レセプションセンターから専用車で移動して見学する。	地割れをイメージさせる意匠の博物館を地震跡地保存エリアの中心に計画。 ※開館後の情報不明。
災害の種類	地震	○	○	○	○
	津波				
	その他				
被災建物		○ 工場		○ 集落全体	
被災物、被災地盤等			○	○ 集落全体	
新施設（展示等）		○	○	○	○
公園		○			
メモリアル		○ メモリアルウォール、記念林	○ 記念碑		
観光対応				○ ツアー多数	
備考			安仁鎮の古い街並みもあり、観光客を集めている。	街全体が集団移転した。	

※参考：国土交通省都市局「東日本大震災に係る鎮魂及び復興の象徴となる都市公園のあり方報告書」（平成24年3月）および各施設のホームページ等